

森づくり最前線

天竜森林管理署 瀬尻森林事務所 森林官 坂本朋美



天竜川

私が勤務する瀬尻森林事務所は、静岡県西部の天竜林業中心地帯に位置し、約1,400㍉の国有林を管理しています。この瀬尻国有林は、天竜川の度重なる水害を憂慮し、「河を治むるは、山を治むるに有り」として大規模な植林事業に献身した金原明善翁が最初に植林を行ったゆかりの地です。この植林事業は、後の天竜美林形成への原動力となりました。

管内には、「天竜美林」の名声に恥じない良好な状態の林分が多く見られ、また比較的林道網が充実していることから、林業を行う環境には恵まれていると言えます。

今年度も多くの間伐等が実施又は予定されており、天竜署管内でも有数の事業量を誇る国有林となっています。

また県の天然記念物に指定されたホソバシャクナゲ群落や、優良な生育を示す林分として人工林施業の参考にするため保護林に設定された展示林、全国各地からスギの種子や苗木を収集し産地別・品種別に展示した見本林など、一般の方々に学習や憩いの場も提供しています。



瀬尻スギ展示林

このような環境の中、国有林の巡視や林況調査、請負事業体の監督や市民への対応等に当たっています。作



瀬尻国有林遠望

成しなければならぬ文書も様々あり事務量も意外に多いのですが、できる限り国有林の現場へ出るように心がけています。瀬尻は降水量が非常に多い地域であるため、まとまった雨量が観測された後には、速やかに管内林道を巡視して落石や路肩崩壊といった危険箇所を発見・対処し、事業体や入山者がいつでも安全に通行できるよう努めています。

昨年4月に林野庁に採用され今年2月まで霞ヶ関で一日中パソコンと向き合っていた生活から一転して、現在は周囲を山とダムに囲まれた集落に暮らしながら、地下足袋姿で山へ出かける毎日です。

現場の最前線で右も左も分からない状態からスタートした私の森林官生活も、早いもので7ヶ月目となりました。まだまだ半人前で頼りない森林官ではありますが、周囲の方々に支えられて日々奮闘しています。30年以上にわたって瀬尻の森林を見てきた現場職員の方々と、山に関する様々な話をしながら作業する時間はとても貴重なものです。先輩のように山と共に暮らしてきた人々の知見や技術、森林に対する思いなどから多くを吸収し、先人から引き継いだこの伝統ある国有林を少しでも良い状態にして後世に伝えていけるよう、今後も全力で業務に取り組んでいきたいと思ひます。



国有林探訪ツアーにて